

第598回 新潟放送番組審議会 議事録

審議番組

ラジオ・テレビ サイマル番組（同一内容番組）
「新潟地震50年 ふるさとの防災を考える」



平成 26 年 6 月 25 日

BSN新潟放送

第598回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成26年6月25日(水) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟放送本社 6F会議室

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	正道かほる	委員	古賀豊
委員	小島良子	委員	佐藤元
委員	佐藤明		

○委員側欠席者

委員	高井盛雄	委員	佐々木広介
委員	行形貴子		

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
常務	水田義雄	営業局長	斎藤和利
報道制作局長	五十嵐幹史	ラジオセンター長	鍵富徹

〈説明員〉報道制作局情報センターテレビ制作担当部長
プロデューサー 宮腰尊史

事務局

事務局長	小原弘志	(社長室長)
事務局員	増山由美子	(考査広報部長)

4. 議題 1、報告事項 「7月の新番組・単発番組」報告

2、審議番組

ラジオ・テレビ サイマル番組(同一内容番組)

「新潟地震50年 ふるさとの防災を考える」

放送日時 テレビ 5/31(土) 午前10:30～11:00

ラジオ 6/1(日) 午前11:00～11:30

5. 議事の概要

～番組審議委員の主な意見・質問～

- 「ふるさとの防災を考える」というタイトルのとおり、今後自分たちがどのように意識を変えていったらよいか考えるきっかけになる番組だった。
- しっかりした構成で、30分を手際よくまとめていたが、ラジオ番組としては手際良すぎて聞き損ねる部分があったのではないか。
- 地震だけでなく、三八豪雪などの貴重な資料映像が効果的に使われていた。
- 対談する二人の声の質が柔らかくとても聞きやすかったが、情報量が多すぎた。紹介される内容について考える「間」がほしかった。
- 地域の連携・広域の連携など「連携」という言葉が何度も出てきた。自治体と住民の連携の重要性を再認識した。
- 今回の番組の続編として、様々な行政の取り組みを紹介してほしい。また、放送局の災害対応についても詳しく聞きたい。
- 「防災センター」は子どもたちに見学させたいと思った。災害に対して自分たちがどういう備えをしたらよいか学ばせることができると思う。
- 特性の違うテレビとラジオで同一内容を放送するのは難しいと感じた。テレビ中心の構成になっていたように思う。
- 災害に対する危機管理意識は風化していくものなので、メディアはこのような番組を通して常に情報を発信し続けてほしい。

～制作担当・宮腰プロデューサーから～

貴重なご意見ありがとうございました。

- 新潟地震から50年をきっかけに、この50年間新潟県に何が起きてこれからどうしていかなくてはいけないのかを見据える視点で番組を制作した。地震だけでなく水害・雪害などトータルに国が取り組んでいることを聞き出したいと考えた。盛り込みすぎたという反省もある。また、対談という性質上、言葉のキャッチボールの内容はラジオでも伝わると思ったが、ラジオ的な構成も必要だったかもしれない。いただいたご意見は今後の番組制作に活かしていきたい。

～番組で対談した竹石社長より～

- 国土交通省が「連携」を重視していること、災害時には県や市町村と一体となって復旧のために対応しようという国としての使命感の強さを感じた。
災害時に国が収集した情報を県民に広く伝えるために、放送局を活用してほしい。
それは放送局の役割でもあるので、災害に備える対応をしっかりとやっていく。